

町内各地で鬼火たき

1 年の無病息災を願って

1月上旬、町内各地で鬼火たきが行われました。1月7日の午後3時過ぎ、蔵之元下地区の田んぼで、竹やスギの木で組まれたやぐらに火が入れられ「パンッ！パンッ！」と鳴る竹の燃える音とともに、炎は高く燃え上がりました。

蔵之元下の中野孝康小組組合長は「鬼火たきは育成会が中心となってやってもらっているが、小組会員 65 世帯ほとんどの参加してもらっている」と頬を赤らめながら話していました。

この日は、餅だけでなく、とん汁やぜんざい、鳥の手羽焼きなどが振舞われ、お年寄りから子どもたち皆で今年 1 年の無病息災を願いながら鬼火にあたっていました。



↑ 鬼火で餅を焼く子どもたち

新春長島郷土かるた取り大会

一瞬の手さばきで勝負

1月23日、長島町開発総合センターで、「新春長島郷土かるた取り大会」が開催され、町内の小・中学校の児童・生徒 132 人が参加しました。

この大会では子どもたちが、かるたを通じて郷土長島への愛を持ってもらおうと、長島郷土にちなんだかるたが使用されています。

静まり返った会場で句が詠み始められると、子どもたちは一瞬の間に目当ての札を探し、素早く取っていました。

中学校の部個人戦・団体戦で共に優勝した宮ノ原^{ミヤノハラ}憂^{ウレ}さん（川床中学校1年）は「なかなか練習できなくて、最初は緊張したけど、だんだん慣れてきて楽しくできました」と優勝の感想を話しました。



↑ 真剣なまなざしで競い合う児童

竹崎乙次郎さん 100 歳のお祝い

いつまでもお元気で

竹崎乙次郎さん（母良木）が、1月14日で100歳を迎えられ、町からお祝いが贈られました。この日は、川添町長と町職員が自宅を訪問し、川添町長から竹崎さんにお祝い状と記念品が手渡されました。

大正5年1月14日生まれの竹崎さん。ミキノ夫人（91歳）と共に、健康で長生きの秘訣を話され、二人のなれそめなど思い出話に花を咲かせていました。竹崎さんは「時代の流れとともに、長島町の生活環境がみるみる整備され良くなってきている。これからもよりよい長島町を作っていくってほしい」と話していました。

竹崎さんが100歳を迎えられたことで、本町在住の100歳以上の人は7人となりました。



↑ 100歳を迎えた竹崎さん(写真中央)とミキノ夫人(写真左)